

## ■事例紹介

# ふるさと水土里ふれあいの旅 2024 について

令和6年6月13日（木）に青森北部、青森第二北部、奥内の3土地改良区主催のもと、「ふるさと水土里ふれあいの旅 2024」が開催され、青森市立北小学校5年生の児童24名が参加しました。

この野外学習は、土地改良区管内を学区とする青森市立北小学校の児童を対象とし、頭首工やため池等の農業水利施設の役割と、これら施設を維持管理する土地改良区の役割を理解することを目的として開催しています。

また、現地見学だけでなく、生き物観察や水質調査、農業用水路での現地調査等を併せて行うことで、楽しく農業や自然と触れ合う中で、田んぼの水はどこから来ているのかを学ぶことを目的としています。



開催場所

### 1. 山城ため池（やましろためいけ）

山城ため池では、土地改良区役員からため池の歴史や機能について、県民局林業振興課から森林の水源林のはたらきについて説明があり、参加児童は意欲的に耳を傾けていました。説明後は水質調査と生き物観察を行いました。



水質調査ではパックテストを使用し、ため池の水の pH や COD を調査しました。バケツに汲んだため池の水に直接触れ、温度も確認しました。生き物観察では、ため池周辺で捕獲した水生生物について、講師の工藤氏による解説がありました。



## 2. 後潟川頭首工（うしがたがわとうしゅこう）

後潟川頭首工では、主催土地改良区から頭首工の歴史や仕組みについて説明がされた後、代表で2名の児童がゲート操作を体験しました。ゲートが開いた途端、勢いよく水が流れ込み、その迫力に児童達は圧倒されていました。

その後は水質調査や生き物観察を行い、ため池と頭首工で比較を行いました。参加児童は「ため池の水はぬるかったけど川の水は冷たいんだね」と驚いていました。



## 3. 第1分水工（だいいちぶんすいこう）

分水工では、主催土地改良区から水争いの歴史や分水工の役割について説明がありました。



#### 4. 用水路でのアヒルレース

用水路にスタートとゴールを設定し、アヒルのおもちゃを使ってアヒルレースを行いました。水路 900m 間を流れるタイムを計測し、距離と時間から水路の流速を計算しました。大接戦のレース展開に児童達は大興奮！今日一番の盛り上がりを見せました。



イベント終了後、参加児童からアンケートと感想文集を提出してもらいました。アンケートでは「田んぼの水がため池から来ることを学んだ」「ため池や頭首工の生き物が知れて良かった」「水源林は地球にとって大切だと思った」「アヒルレースがおもしろかった」「自分の家の近くだけど、自然がきれいでびっくりした」などの声が聞かれました。

終わりに、参加児童が描いた絵をご紹介します。



(東青地域県民局では、令和6年度ふる水基金事業により、当日使用する感染症対策グッズや水質検査キット、アヒル模型等の物品を提供しました。)